

## 基礎ゼミ I : 連携教育への導入 — 6 年間の実践を振り返って —

永井 洋一

キーワード : 基礎ゼミ I、導入教育、アンケート

### Basic I : An Introduction to the education for teamwork — A reflection to 6 years experience —

Yoichi Nagai, M.S., O.T.R.

keyword : Basic seminar I, Introductory Education, Questionnaire

#### はじめに

昨今の高等学校における学習はいわば「受け身型」であり、課題や方法は教師主導型である。これに対し、大学での教育は学生に能動的であることが要求され、授業を聞くだけではなく自発的・主体的な学習が求められている。しかし、近年の「学力低下」も相まって、この「高大ギャップ」は年々拡大していると言われており、大学教育について行けない学生数が増加するとも言われている<sup>1)</sup>。このような傾向に対し、基礎ゼミ I は大学生活への円滑な導入を図ることを主たる目的として、本学の設立準備委員会で開講が検討され、開学後は教育開発委員会の専任事項として企画・運営が実施されてきた。

基礎ゼミ I の一般教育目標 (General Instructional Objective: GIO) は、「学習に関する基礎的な知識・技術を習得するとともに、対人交流の基礎能力や健康・安全に関する意識を身につけること」<sup>2)</sup> である。これに対応する行動目標 (Specific Behavioral Objectives: SBOs) を表 1 に示す。学習に関する基礎的な知識・技術は SBO - 1 の 1) ~ 8) に述べられており、これらは担当教員と学生の話合いによって決められるテーマに取り組む能動的な活動によって促されるものと期待されている。対人交流の基礎能力も、上記の学習活動や基礎ゼミの一環として行われる学

生教員交流会の中で持たれる人間的触れ合いによって育まれると想定されている。対人交流技能は、チームワークを重視する連携教育の基盤として育成する必要があると考えられるため、基礎ゼミ I に続いて基礎ゼミ II でも重視される目標である。健康・安全に関する意識は、特に喫煙・飲酒・感染症に対する対応として取り組むことが求められており、可能な限り基礎ゼミ I の内容として取り扱うことが期待されている。

このような SBOs を達成するために、本科目は原則として各学科の学生 8 ~ 10 名に対し同じ学科に所属する教員 1 名が担当として割り当てられ、毎週水曜日の 3 限に一斉に開講されている。シラバスには 14 回分の授業計画が示されているが、実際には全学科で一斉に同じプログラムを実施するのではなく、学科ごとの特性に合わせて基本的な内容が設定され、その枠の中で担当教員の自由裁量に任されている部分が多い。教室は原則として担当教員の研究室やゼミ室を使用しているが、学科ごとの全体会や 6 月中旬に実施される「夢を語る会<sup>(註 1)</sup>」では中・大教室を使用して一斉授業方式で行われる。

教材のスタンダードとして『知へのステップ』(くろしお出版) が指定されてはいるが、強制ではない。ゼミで取り上げるテーマは学科や担当教員の専門分野によって決定

[註 1] : 入学時に学長から新入生への依頼として「私の夢」というタイトルの作文を書いてもらい、各学科で選考された代表がその作文をこの会において全 1 年生の前で発表する。

永井 洋一 新潟医療福祉大学 医療技術学部 作業療法学科

[連絡先] 〒 950-3198 新潟市島見町 1398 番地  
TEL/FAX : 025-257-4446  
E-mail : nagai@nuhw.ac.jp

表1. 平成18年度基礎ゼミⅠシラバス（一部）

<p>【〈概要〉又は〈一般目標：GIO〉】</p> <p>本科目は大学生生活への円滑な導入を主たる目的として設定されている。この目的を実現するために、少人数のゼミ・グループで学習に関する基礎的な知識・技術を習得するとともに、対人交流の基礎能力や健康・安全に関する意識を身につける。</p>
<p>【〈学習目標〉又は〈行動目標：SBO〉】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学生としての学習に必要な以下の能力を、課題への取り組みなどを通して実践することができる             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 話を聴いて正しく理解する</li> <li>2) 文章を正確に読みとる</li> <li>3) 話や文章の要点をまとめる</li> <li>4) 疑問に思ったことを調べる</li> <li>5) 必要な情報を収集する</li> <li>6) 自分の意見を筋道を立ててまとめる</li> <li>7) 収集した情報を利用して課題を完成する</li> <li>8) 考えた内容を相手にわかるように伝える（書く・話す）</li> </ol> </li> <li>2. ゼミ活動を通して教員や学生と良好な人間関係を築き、対人交流の技術を発展させる</li> <li>3. 健康で安全な生活を過ごすために、次のことが実践できる             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康上の障害となる身体的・精神的要素について列挙する</li> <li>2) 安全を保つための留意点について列挙する</li> <li>3) 1)及び2)の実践方法について討議する</li> </ol> </li> </ol>

されるだけではなく、教員と学生の話し合いによって決められる場合もある。平成18年度の実施内容に関するアンケートを概観すると、学生が興味を持った内容について調べてメンバーの前で発表する、所属学科の専門に関する内容を文献検索して発表する、フィールドワークを行ってレポートにまとめる、オープンキャンパスで来場者に学科をアピールするための資料を作成する、など様々な活動が選択されている。

基礎ゼミⅠは開学以来6年間、毎年マイナーチェンジを繰り返して「歩きながら考え」てきた。教育開発委員会では基礎ゼミⅠの内容・方法の改善に資するために、学生・教員を対象としたアンケートを平成16年度から本年にかけて3回実施し、回答をデータとして蓄積してきた。本稿の目的は、このアンケート結果から基礎ゼミⅠの現状を分析するとともに、今後の課題について検討することである。

### 方法

学生用アンケートは、毎年前期最終回の基礎ゼミⅠで配布され、授業終了時に回収される。内容を資料1に示す。回答用紙は無記名だが、データ整理のために学科名のみ記入する。教員用アンケートは、教員と学生の交流、本科目の成績評価、改善の必要性に関する意見などの項目を学生用アンケートと対応する項目に加え、授業終了後10日～2週間で回収される。内容を資料2に示す。回答用紙は無記名だが、データ整理のために学科名と基礎ゼミ担当経験年数のみ記入する。結果の整理については、両アンケートとも選択肢に対する反応をパーセントで表し。自由記述欄の回答は今回割愛する。なお、対象は平成16年度までは理学療法、作業療法、言語聴覚、健康栄養、社会福祉の5学科だったが、平成17年度には健康スポーツ学科、平成18年度には看護学科が加わった。

### 結果および考察

学生用アンケートの結果（全学科の平均値）を表2に示す。学習基礎技能に関する項目への反応は年ごとに変動が

大きく、一定の傾向を見いだすことは困難であった。この理由の1つとして、基礎ゼミⅠでは学習基礎技能を評価する観点や評価の手法が確立しておらず、学生も自分自身の能力がどの程度改善されたか感じにくいということが考えられる。これについては、かつて教育開発委員会に対して「学生の成績評価基準を示すように」という要望があり、委員会で学生の自己評価の形でチェックリストを作成した経緯がある。しかしながら、「評価基準が細かすぎる」「教員からは評価しきれない」という教員の声が多く、評価基準は「ゼミ活動への積極的参加を評価する」とされた。今後これを再検討して、どのような能力が学生の身についたか確実に評価できる手段を設ける必要があると思われる。第2の理由として、前述のように基礎ゼミⅠのプログラムは各教員に一任されているため、学生のメンバーと教員の相互作用によって年毎に変化する可能性もあり、学生の評価はこれを反映しているとも考えられる。

これと比較して、対人関係に関する項目や夢を語る会への感想、総合的満足度は3年間ほぼ変化がなく、肯定的反応が全体の70～80%を占めていた。特に「友達作りや情報交換」「夢を語る会」においてほぼ80%の学生が基礎ゼミⅠの内容を肯定的に評価しており、少人数クラスで友人を作る、担当教員と親しくなるという対人交流面での行動目標はほぼ達成されていると考えられる。

教員用アンケートの結果を表3に示す。学習基礎技能に関しては、「話を聴いて正しく理解する」「文章を正確に読みとる」を意図的に指導した教員が回答者の40%台であったのと比較して、「要点をまとめる」「疑問を調べる」「意見をまとめる」「考えを相手にわかるように伝える」は、意図的に指導した教員が回答者の60%を越えていた。教員の多くは学生の聴き取る力・読み取る力が低下していると嘆いているようだが、この結果からはそれほど深刻な事態として受け止めていない可能性もうかがえる。「聴く」「読む」は対象を理解する基本的な能力であるが、現在の学生の「理解する」水準を吟味すると、必ずしも問題がないとは言いきれない。中学生・高校生の読書量が極端に低下し

ていることや口頭でのコミュニケーション能力が貧弱になっていることを考慮すると、1年生の日本語能力を育成する手段の一つとして基礎ゼミ I を見直す必要があるかもしれない。

学生間・教員と学生の交流については、基礎ゼミ I が役に立ったと考える教員が毎年 70% を越えており、学生の回答と同様の傾向が見られた。基礎ゼミ I は大学内における一種の「居場所」を学生に提供するとも考えられ、積極的に部活動に参加していない学生でも、ゼミの課題をめぐって仲間と定期的に会って話し合い、居心地の良さや所属感を感じていると考えられる。休学・退学する学生の比率が平均より 0.5～1% 程度低いのも、ここに一因があるかもしれない。

学習面に関して担当学生から相談を受けた教員は 3 年間平均で 60% 程度いるが、生活面に関する相談を受けた教員は 40% 台にとどまる。履修登録などで教員がアドバイスを求められる機会は徐々に増加しているが、生活に関することまで教員に相談する学生はまだ少ないようである。他大学のように学生健康センターなどを設置し、ゼミ担当教員がそこへの「橋渡し」的な役割をとれるようになると、学生と教員間の敷居はもっと低くなる可能性がある。

健康に関する内容を意図的に扱った教員は 3 年間の平均で 10% 台にとどまり、50～60% が他の話題の中で触れているに過ぎない。これにはどのように内容を扱うべきかというガイドラインがないことも影響していると考えられる。学生用・教員用の 2 種のガイドブックを作成し、それに基づいてセミナーを実施している先進的な大学もあり、これに関してはさらに情報収集を進め、健康管理委員会との連携によって学生の健康教育を推進する必要があると思われる。

「夢を語る会」に関して、教員の評価は学生よりかなり低い傾向がある。学生の語る「夢」が推薦入試の「志望理由書」と同じでつまらない、とアンケートに回答した教員もいるが、地に足のついた夢を述べる学生も、その発表を聞いて素直に「すばらしい」と感動する学生もいる。入学後オリエンテーションの際にこの作文を書かせる意味と意義を徹底させて真剣に書かせることや、学科代表を選考する際に基準を設けて推薦させるなどの手段が取られると、評価は変化する可能性がある。

成績評価に不都合を感じた教員はそうでない教員と比較して少数であったが、基礎ゼミ I の成績評価は他の科目と比較してどうあるべきか、と言う議論には未だに決着がついていない。一方で基礎ゼミの特性は基本的に導入教育であり、副次的に連携教育の基礎としての機能を持っているので、評価は合格・不合格の 2 種類でよい、とする主張がある。他方で明確な基準を設けて評価するべきであるという意見や、現在の 3 段階評価 (A、B、D:Dのみ不合格) は目標と評価の関連性が一貫していない、という意見もあ

り、さらに継続した検討が必要と思われる。

基礎ゼミ I のあり方に改善を求める教員の意見は、回答者の 70%～90% にのぼっている。主な論点を整理すると、教科としての到達目標を整理するべきであるという意見、学科間で課題の異なる状況を改善すべきであるという意見、課題が中途半端では行動目標を達成できないとする意見等がある。平成 20 年度からは新カリキュラムのもとで総合ゼミも開講されることから、基礎ゼミ I・基礎ゼミ II と総合ゼミとの関連も問われるであろう。今後早急に教員の意見を求め、あらためて本学における連携教育という角度から基礎ゼミ I のあり方を検討する場が必要になるとと思われる。

#### まとめ

本学における連携教育の基礎としての基礎ゼミ I について、開講の目的や趣旨を振り返るとともに、平成 16 年度から 18 年度まで実施されたアンケート結果をまとめ、学生の意見、教員の意見を分析する中から現状を明らかにし、今後の課題についていくつかの提言を行った。

#### 引用文献：

- 1) 朝日新聞教育取材班：大学激動—転機の高等教育。朝日新聞。東京。49-77。2003。
- 2) 授業概要 (シラバス) 平成 18 年度版。新潟医療福祉大学。新潟。79。2006。

資料1. 平成18年度学生用基礎ゼミⅠアンケート（抜粋）

## 基礎ゼミⅠに関するアンケート（学生用）

教育開発委員会基礎ゼミ担当

あなたの所属学科は？（理学、作業、言語、栄養、スポーツ、看護、社福）

### I. 学習目標について

A. 基礎ゼミⅠの学習目標には、大学における学習の基礎技能（スキル）を身につけることがあげられています。基礎ゼミⅠを受講して自分の技能が向上したと思うものには3を、今の時点では何とも言えないと思うものには2を、大して変化がなかったと思うものには1を、記入して下さい。

1. 話を聴いて正しく理解する
2. 文章を正確に読み取る
3. 話や文章の要点をまとめる
4. 疑問に思ったことを調べる
5. 自分の意見を筋道を立ててまとめる
6. 考えた内容を相手にわかるように伝える

B. 基礎ゼミⅠが新しい友人関係を作ったり、学生生活に関する情報交換をスムーズに行うために役に立ったと思いますか。

[3.役に立った 2.どちらとも言えない 1.役に立たなかった]

C. 担当教員とは親しい間柄になれたと思いますか。

[3.なれたと思う 2.どちらとも言えない 1.なれたと思わない]

### II. 「夢を語る会」について

D. 6月14日の「夢を語る会」では、各学科から選出された代表がそれぞれ「私の夢」を発表しましたが、聴いてみてどう思いましたか？

[3.よかった 2.どちらとも言えない 1.つまらなかった]

### III. 「学生－教員交流会」について

E. 学生－教員交流会の感想について、当てはまるものを塗りつぶして下さい。

- 1) 楽しかった
- 2) 疲れた
- 3) 学生・教員の名前が覚えられた
- 4) またやりたい
- 5) つまらなかった
- 6) 意味が分からない
- 7) 違う場所がよい
- 8) 違う形式がよい
- 9) まだ実施していない

F. 教員と交流することができましたか？

[3.親しく話のできた教員がいた 2.少しは話のできた 1.ほとんど話ができなかった]

### IV. 全体について

G. 基礎ゼミⅠに関するあなたの総合的な満足度は次のうちどれですか。

[5.大変満足 4.やや満足 3.どちらともいえない 2.やや不満 1.大変不満]

[資料 2. 平成 18 年度教員用基礎ゼミ I アンケート (抜粋)]

## 基礎ゼミ I に関するアンケート (教員用) のお願い

教育開発委員会基礎ゼミ I 担当

先生の所属学科：(理学, 作業, 言語, 栄養, 健スポ, 看護, 社福)

基礎ゼミ I の担当回数：(6 5 4 3 2 1) 回目

### I. 学習目標について

A. 学習目標として、大学における学習の基礎技能 (スキル) を学ぶことが上げられています。次の項目について、かなり意識して指導したのものには○を、あまり意識しなかったが、結果として指導したのものには△を、ほとんど指導しなかったものには×を、それぞれ記入してください。

- a. 話を聴いて正しく理解する [ ]
- b. 文章を正確に読み取る [ ]
- c. 話や文章の要点をまとめる [ ]
- d. 疑問に思ったことを調べる [ ]
- e. 自分の意見を筋道を立ててまとめる [ ]
- f. 考えた内容を相手にわかるように伝える [ ]

B. 上記の目標のために授業で実践された内容を 1つご紹介下さい (例：図書館に引率して、司書から利用方法や検索方法について説明を聞いた [d])

C. 基礎ゼミ I が新しい友人関係を作ったり、学生生活に関する情報交換をスムーズに行うために役に立ったと思いますか。

[4.役に立った 3.どちらとも言えない 2.役に立たなかった 1.教員からは何とも言えない]

D. 基礎ゼミ担当教員は学生の学習や生活に関するアドバイザーとしての役割も果たすように期待されていますが、実際に学生から相談は受けましたか？

- a. 学習について (科目履修や選択など) : [2.相談を受けた 1.相談を受けなかった]
- b. 生活面について (困り事, 進路など) : [2.相談を受けた 1.相談を受けなかった]

E. 今年度も「健康講座」を実施せず授業の行動目標として設定しましたが、その目標 (健康で安全な生活を送るための要素・留意点を列挙する) を授業の中で意識的に取り扱いましたか？

[3.意識的に取り扱った 2.話題の中で触れた 1.取り扱わなかった]

### II. 「夢を語る会」について

F. 6月14日の「夢を語る会」では、各学科から選出された代表がそれぞれ「私の夢」を発表しましたが、聴いてみてどう思いましたか？

[3.有意義だった 2.どちらとも言えない 1.意義を感じなかった]

### III. 「学生-教員交流会」について

G. 学生-教員交流会に参加した感想をお聞かせ下さい。

### IV. 成績評価

H-1. 成績評価の段階づけ: 3段階 (A, B, D) に関して、何か不都合を感じたことがありましたか。

[1.あった 2.なかった]

H-2. 上で「あった」と答えられた方は、どんな点が不都合だったか、簡潔にお聞かせ下さい。

V. 全体について

- I. 貴学科における今年度の実施方法を全般的に評価すると、  
[3. 大幅な改善が必要である    2. 若干の改善でさらに効果的になる    1. 成功であった]
- J. 基礎ゼミⅠで最も改善が必要と思うことをお書き下さい。
- K. その他の意見がありましたらお書き下さい。

表2. 学生へのアンケート結果：まとめ

## A. 学習基礎技能に関する項目

		16年度	17年度	18年度
a. 話を聴いて正しく理解する	改善した	63.8%	37.2%	38.8%
	何とも言えない	32.7%	22.9%	51.0%
	変化なし	4.3%	39.9%	5.9%
	無効	0.0%	0.0%	4.3%
b. 文章を正確に読み取る	改善した	45.3%	22.3%	25.1%
	何とも言えない	45.8%	27.8%	61.3%
	変化なし	8.9%	49.9%	10.4%
	無効	0.0%	0.0%	3.2%
c. 話や文章の要点をまとめる	改善した	47.1%	38.8%	34.0%
	何とも言えない	41.9%	27.5%	52.5%
	変化なし	11.0%	33.7%	9.7%
	無効	0.0%	0.0%	3.8%
d. 疑問に思ったことを調べる	改善した	61.3%	44.3%	43.8%
	何とも言えない	29.1%	21.2%	42.2%
	変化なし	9.6%	34.4%	8.7%
	無効	0.0%	0.0%	5.3%
e. 自分の意見を筋道を立ててまとめる	改善した	46.6%	29.2%	29.0%
	何とも言えない	41.9%	29.7%	56.5%
	変化なし	11.6%	41.0%	10.5%
	無効	0.0%	0.0%	3.9%
f. 考えた内容を相手にわかるように伝える	改善した	41.7%	33.7%	31.4%
	何とも言えない	51.7%	24.6%	53.9%
	変化なし	6.6%	41.7%	10.8%
	無効	0.0%	0.0%	3.8%

## B. 対人交流に関する項目

		16年度	17年度	18年度
a. 友人関係の形成や学生生活の情報交換に役に立つ	役に立った	83.5%	83.0%	83.1%
	何とも言えない	15.1%	14.4%	13.0%
	役に立たなかった	1.4%	2.6%	1.9%
	無効	0.0%	0.0%	2.1%
b. 担当教員と親しくなった	親しくなった	68.4%	65.9%	70.1%
	どちらとも言えない	27.4%	31.1%	23.4%
	親しくなれたと思わない	4.2%	3.1%	5.0%
	無効	0.0%	0.0%	1.6%

## C. 「夢を語る会」の感想

		16年度	17年度	18年度
「夢を語る会」の発表を聞いた感想	よかった	80.8%	80.8%	74.4%
	どちらとも言えない	16.4%	16.0%	19.1%
	つまらなかった	2.8%	3.2%	4.8%
	無効	0.0%	0.0%	1.7%

## D. 学生 - 教員交流会の感想

## 1. 感想

	16年度	17年度	18年度
1. 楽しかった	32.1%	30.1%	41.4%
2. 疲れた	11.0%	15.6%	6.5%
3. 学生・教員の名前が覚えられた	12.2%	13.6%	4.2%
4. またやりたい	19.9%	21.1%	10.0%
5. つまらなかった	2.2%	2.0%	1.1%
6. 意味が分からない	3.7%	2.2%	2.3%
7. 違う場所がよい	4.7%	6.7%	1.2%
8. 違う形式がよい	9.3%	6.5%	2.7%
9. その他	4.9%	2.2%	15.3%
10. 無効	0.0%	0.0%	15.3%

## 2. 教員との交流

	16年度	17年度	18年度
親しく話ができ	20.9%	33.6%	32.5%
少しは話ができ	52.4%	58.0%	46.2%
ほとんど話ができなかった	26.7%	8.4%	17.0%
無効	0.0%	0.0%	4.3%

## E. 総合的満足度

(16年度)		(17,18年度)		16年度	17年度	18年度
満足	大変満足			71.1%	35.4%	30.3%
	やや満足				45.4%	41.0%
どちらとも言えない	どちらとも言えない			25.4%	18.5%	18.4%
不満	やや不満			3.6%	2.3%	5.3%
	大変不満				0.0%	1.8%
	無効			0.0%	0.0%	3.2%

表3. 教員へのアンケート結果：まとめ

A. 学習基礎技能に関する項目

		16年度	17年度	18年度
a. 話を聴いて正しく理解する	意図的に指導した	40.0%	41.7%	47.5%
	結果として指導した	52.5%	47.9%	44.1%
	指導しなかった	7.5%	10.4%	8.5%
b. 文章を正確に読み取る	意図的に指導した	52.5%	45.1%	42.3%
	結果として指導した	25.0%	33.3%	40.4%
	指導しなかった	22.5%	21.6%	17.3%
c. 話や文章の要点をまとめる	意図的に指導した	72.5%	67.3%	68.5%
	結果として指導した	20.0%	27.3%	25.9%
	指導しなかった	7.5%	5.5%	5.6%
d. 疑問に思ったことを調べる	意図的に指導した	57.5%	52.7%	67.9%
	結果として指導した	30.0%	30.9%	17.0%
	指導しなかった	12.5%	16.4%	15.1%
e. 自分の意見を筋道を立ててまとめる	意図的に指導した	60.0%	56.9%	62.3%
	結果として指導した	32.5%	33.3%	32.1%
	指導しなかった	7.5%	9.8%	5.7%
f. 考えた内容を相手にわかるように伝える	意図的に指導した	70.0%	52.8%	60.3%
	結果として指導した	25.0%	35.8%	36.2%
	指導しなかった	5.0%	11.3%	3.4%

B. 対人交流に関する項目

		16年度	17年度	18年度
基礎ゼミⅠが友達作りや学生生活に関する情報交換に役立った	役に立った	76.9%	70.9%	74.2%
	どちらとも言えない	7.7%	20.0%	12.9%
	役に立たなかった	2.6%	0.0%	0.0%
	教員からは何とも言えない	12.8%	9.1%	12.9%
学習面についてゼミ担当学生からの相談を受けた	受けた	73.7%	76.8%	64.3%
	受けなかった	26.3%	23.2%	35.7%
生活面についてゼミ担当学生からの相談を受けた	受けた	43.6%	42.9%	49.1%
	受けなかった	56.4%	57.1%	50.9%

C. 健康に関する内容の取り扱い

	16年度	17年度	18年度
意図的に指導した	5.0%	8.9%	21.1%
他の話題の中で触れた	50.0%	50.0%	59.6%
取り扱わなかった	45.0%	41.1%	26.3%

D. 「夢を語る会」の感想

	16年度	17年度	18年度
有意義だった	25.6%	43.4%	35.1%
どちらとも言えない	53.8%	37.7%	52.6%
意義を感じなかった	20.5%	18.9%	12.3%

E. 成績評価の不都合

	16年度	17年度	18年度
不都合を感じた	20.5%	27.8%	17.3%
不都合を感じなかった	79.5%	64.8%	82.7%

F. 基礎ゼミⅠの全般的評価

	16年度	17年度	18年度
大幅な改善が必要	34.4%	2.0%	18.9%
若干の改善が必要	59.4%	68.6%	56.6%
このままでよい	6.3%	29.4%	24.5%